

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

私たちを守ってくれる税金

県立会津学鳳中学校 3年 今村 真生

小学生の頃、税金についての授業を受けたことがある。税金は町作りや教育のため、地方や国の借金の返済のため、本当に様々な用途で使われていることを知った。特に一番多く使われているのは社会保障の領域だ。これは医療から年金に至るまで、私たちの生命や健康を守るだけでなく、高齢社会においてお年寄りが健康的な生活を送るために必要な財源を賄うものでもある。他にも福祉や生活保護などの領域でも用いられており、私たちの生活を支える財源として不可欠なものだ。特に社会保障に目を向けてみると、税金は私たちが不慮の事態に見舞われ、生活が思うように営めなくなってしまった時のセーフティーネットの役割も果たすものだと知った。

その例として、昨今のコロナ禍における様々な補償についてだ。新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言が発令され、活動が制限されたことによって、減収や失職に追い込まれる事例が後を絶たない。このような人たちにとって今回給付された特別定額給付金などの給付金は、活動自粛の間の損失を補うために十分なものではないかもしれないが、一時的に必要な部分を補い、心を安定させる材料になったはずである。

他にも、災害などの緊急事態において国や自治体が果たすべき役割も見逃せない。そして、その財源となるのもまた、税金なのだ。その例として、東日本大震災の時のことが思い出される。当時、まだ五歳で記憶も曖昧だが、地震で割れた窓、地割れした道路など、被害を受けた街並みの風景は今でも脳裏に焼きついている。しかし、気がつけば猛烈なスピードで復旧が進んでいったことも鮮明に覚えている。小学校に進学してからも、私たちが使う遊具などの除染作業が行われていたのを見た。後に知ったことだが、震災の復興にもまた多くの税金が使われていた。

税金について改めて考えるうちに、私は、「自助、共助、公助」という言葉を思い出

した。非常時においては、自分で自分を、また身近にいる人とお互いに助け合う「自助、共助」ももちろん大切だ。しかし、先ほど挙げた例のように、いざという時、私たちの生活を最終的に守ってくれるのは国や自治体なのだ。つまり、「公助」を受けるための財源として税金があるのだ。だから、税金は私たちの当たり前の日常を作ることや、また、取り戻すことにおいてとても重要なものであるといえるのだ。さらには私たちの日常をより色鮮やかなものにするためのものでもあり、私たちが緊急事態に陥ったとき私たちに安心と安全を与えてくれる源も、税金の役割なのだ。

納税は日本国民の三大義務でもある。私たちの幸せを守るためのものなのだから、私たちは当然、その義務を果たさなければならない。しかし、だからこそその一方で、その税金が一体どのように使われているのか、常に目を光らせておくことも重要なのである。